



浅間山(1940年) 愛媛県美術館

畦地梅太郎版画展

— 山は生きている —

2026年1月30日(金) — 3月30日(月)

畦地梅太郎記念美術館 [井関邦三郎記念館併設]

主催 愛媛県美術館・畦地梅太郎記念美術館

開館時間 AM9:00～PM5:00 (入館受付はPM4:30まで)
休館日 火曜日(祝休日の場合は、その直後の平日)
入館料 大人 300円 65歳以上 200円 大学生 200円
※高校生以下・障がい者手帳等をお持ちの方は無料
住所 愛媛県宇和島市三間町務田180-1
「道の駅みま」併設 松山自動車道三間IC傍
お問い合わせ TEL/FAX 0895-58-1133

イベント開催【当日限り入場無料】

愛媛交響楽団のメンバーによる
弦楽四重奏ミニコンサート

3月22日(日) AM11:00・PM1:00(各回30分程度)
会場：畦地梅太郎記念美術館 展示室

愛媛県美術館コレクションによる おでかけ美術館

畦地梅太郎版画展 ― 山は生きている ―

畦地梅太郎は、1902(明治35)年、愛媛県北宇和郡二名村(現：宇和島市三間町)に生まれました。10代で故郷を離れ、その後、版画技法との出会いにより、平塚運一や恩地孝四郎・前川千帆ら気鋭の版画家との交流を通して、独自の画風を確立していきました。

35歳の時、噴煙を上げる浅間山を見て、「山は生きているんだ」と感動したことがきっかけとなり、山を主題にして版画を制作するようになります。山を愛し、自ら山を歩いて制作した作品は、温かいぬくもりとおおらかな人柄を感じさせ、木版画ならではの素朴さの中に、洗練された感性や感覚にあふれています。1999(平成11)年、96歳で亡くなりましたが、その作品は今なお多くのファンを魅了し続けています。

本展は、「愛媛県美術館コレクションによるおでかけ美術館」として、初期の鉛版画にはじまり、木版画による都会風景から故郷の自然や雄大な山々・山男を描いた作品、抽象表現、晩年の山男へと、畦地作品の変遷をたどります。

自らの人生を「とほとほと」と表現した梅太郎の確かな版画の歩みをご鑑賞ください。



火山(1937年)



石鎚山(1985年)



なげく山男(1957年)



小名木川附近(1930年)



法華津峠展望(1936年)



子供たち(1946年)

全て愛媛県美術館蔵

愛媛県美術館コレクションによる おでかけ美術館

愛媛県美術館が所蔵する作品を、東予でも展示します。

場 所 暁雨館(〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町入野178-1)

会 期 2026年3月3日(火)～3月12日(木)



お問い合わせ

畦地梅太郎記念美術館 [井関邦三郎記念館併設]

愛媛県宇和島市三間町務田180-1(「道の駅みま」併設) TEL/FAX 0895-58-1133

◆当館へのアクセス

< 車 > 松山自動車道 三間ICから約1分(宇和IC～三間IC無料区間)

< JR > 宇和島駅から予土線乗車 務田駅下車 徒歩約8分

< バス > 宇和島自動車三間方面行 道の駅みまバス停下車 徒歩約1分

